

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370500599		
法人名	特定非営利活動法人NPOみなまた		
事業所名	グループホームキトさん家		
所在地	熊本県水俣市丸島町1-11-6		
自己評価作成日	令和6年 2月 2日	評価結果市町村報告日	令和6年 3月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

丸島地区という住宅密集地にある民家改修型のグループホームである。住宅提供者のキトさんが約70年も暮らし続けた家である。名前の由来である「キトさんげ」はキトさんの人柄に対する信頼と親しみを込めて当初より「キトさん家」と呼ばれていた。その繋がりを大切に、地域の方々がキトさん家での入居者の方の暮らしぶりを見ながら、例え認知症になったとしても住み慣れた地域で安心して過ごせるという事、入居者の方、家族に対しても安心して頂ける場所として職員一同日々努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地にある「自宅」のような事業所での生活は、なるべく自分の力を活かして頂けるよう見守りを中心とされており、地域で暮らし続ける穏やかで和やかな様子を感じるものでした。コロナ禍で制限を余儀なくされていたこの数年間でしたが、中でも入居者の「言葉」を大切に、「出かけたが聞かれれば時間を見つけてドライブに出かけたり、通院の帰りに買い物に立ち寄りたりと、個別支援がなされています。感染症に配慮しながら計画による季節の花見やお弁当持参のドライブ等にも取組まれていました。家庭的でありながらも入居者の状況は家族へ伝えられ、担当者会議へも家族の関わりがありました。家族アンケートでも「気持ちに寄り添った介護」「安心して何でも言える」関係性をうかがうことができる事業所でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根付いた事業所を目指し、「尊重、安心、自立支援、地域共生」を念頭に置きながら日々のケアに取り組んでいる。また理念について勉強会を行い意識してケアができるよう共有を行っている。	4つの柱を持つ理念は毎月2回(モニタリング・ミーティング)職員が集まる機会に理念について話している。コロナ禍による制限も一部見られたが、入居者の生活は「地域の中での暮らし」そのものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には交流できていないが、隣保班に加入しており、月番、リサイクル当番にも参加している。	事業所は地域の「家」の一軒であり、地域清掃や隣保班の月番等も参加している。地域清掃や当番等は職員が参加している。	以前のように、入居者・家族・事業所とのイベント開催等による交流を望んでおられる様子がうかがえました。入居者も参加できる取組みの実現に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在の所、地域の方に向けてはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ、インフルエンザなどの感染症の観点から集まっての開催は出来ていないが、配布により報告を行っている。	現状対面での開催は叶わず、地域等には書面による報告、行政には訪問を頂き直接取組み等を報告している。	現状、地域やご家族には書面による報告が続いているようです。運営推進会議では多面からの意見を得る機会でもありませんので、意見を頂くための工夫や記録の取組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議行政のみ参加、レジメ配布にて報告している。	運営推進会議開催月に来訪頂き、直接事業所の取組みを伝え、意見を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を定期的に行っている。また法人研修への参加や勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の職員ミーティングにおいて身体拘束をしないケアについての共有を行い取り組んでいる。動画等も利用し、法人研修や勉強会も開催しており、日頃のケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修にて勉強会を行っている。管理者は、職員の言葉使い、態度等について常に注意を払っている。		

グループホーム キトさん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の法人研修の中で学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分時間をかけ説明を行い同意を得ている。その際に疑問や質問等にもすぐ対応を行っており、後日の質問に関しても迅速な対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できる限り要望等は聞きながら対応している。また毎月のモニタリングの中で報告し、職員全体での共有も行っている。	入居前から入居者・家族と面談を行い、意見や要望の確認をしている。入居後も家族への電話等での状況報告や面会・運営推進会議・担当者会議等、入居者の状況を伝えながら意見を得る機会を持っている。現状、家族の面会や協力もよく見られる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年一回の職員集会を開催している。開催できない場合は要望をだして上にあげている。	日頃から職員は管理者へ意見を表すことができる。毎日の引継ぎや毎月のミーティングでも職員が集まる機会もあり、必要に応じ、職員の意見に対し事業所・法人で対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の要望や状況を把握し、勤務時間の調整を行うなど働きやすい環境作りに務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人研修を実施している。また外部研修にも参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	水俣市介護保険サービス連絡協議会に属しており、地域密着サービス連絡会にて他の施設と意見交換等を行っている。		

グループホーム キトさん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前後にお話を伺い、本人はもちろんの事、家族にも入居にあたっての要望を伺う機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、本人と家族と面談しながら不安なことや要望について話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と面談し要望を把握し、必要な支援が何か確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に何かをするのではなく、共に暮らし支える関係にある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限はあるが、できる限り面会を行っている。また外出や外泊の希望にも対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限があったため玄関先、窓越しでの面会であった。また墓参りや、なじみの場所へのドライブなども行ったりしている。	以前のような外出・来訪による気軽な支援は難しい状況であったが、家族協力により一時帰宅や宿泊、馴染みの美容院への外出等も見られる。希望があれば職員とのドライブで自宅を訪れたり、馴染みの店で買い物に出向く等も続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように席の配置などを替え、リビングで交流できるようにしている。また物作りや家事を行い、その中で利用者同士が関わりあえるよう努めている。		

グループホーム キトさん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今回は病院への入院となりなかなか対応がなくなってしまう現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プランは本人や家族の要望、希望を聞いて作成されている。またモニタリングの中で一人一人報告し、職員間での共有を行っている。	入居者自身の思いを出せる方、難しい方それぞれであるが、「言葉」を大切にケアを行っている。介護計画にも「話しかけて思いを聞く」等、具体的に示し取組んでおり、時には家族へも相談しながら支援している。生活歴から趣味や好きなこと等を把握し、実現に向けた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に家族から聞いたり、会話の中から本人の生活歴を聞きながら情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の気付きや申し送りなどで入居者一人一人の情報を共有しながら今の状況を理解し対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング、ミーティングでの意見交換や、本人、家族の意見を聞きながらケアプラン作成を行っている。	毎月のモニタリングは、その月の入居者担当職員を中心に職員間で意見を出し合っている。ケアカンファレンスではケアマネージャーを中心に行い、見直し・変更・課題等について職員に説明を行っている。家族の意見も確認しながら介護計画作成・見直しを行っており、担当者会議には家族も参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や申し送りで情報を共有し、毎月モニタリングの中で意見を出し合いプランの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度できる限りニーズには対応をしている。		

グループホーム キトさん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人の方は図書館の本をスタッフが借りに行き、それを読んでいる。本人が本を借りに行く事を計画している。また定期的に行きつけの美容室に行かされている方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を続けていけるよう対応している。また本人の希望がある時も受診を行っている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。受診が必要な医療機関には職員が付き添う。希望や必要とされる際には看護師と相談し職員が付き添い通院しており、時には家族の同席もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より看護職員に相談を行っている。入居者の体調の変化等に関しては状況を説明し、対応や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを医療機関に提出し、退院前の病状説明に関しても出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては病院、家族、施設との話し合いを事前に何度も行い方針の共有を行っている。	入居者・家族の意向・希望を確認し、実際にその時期を迎える際には家族・医師他関係機関と話し合いを重ね、支援を行っている。記録より、職員の疑問・不安も医師に伝え、きめ細やかな対応方針を定めていった様子がうかがえた。看取り期にはコロナ禍でも家族を居室へ招き、家族の宿泊も受け入れ、最期の時間を過ごして頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回の救命救急の研修を行っている。またマニュアルを作成し、定期的に確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年二回実施、現在はなかなか地域との連携が取れていない。	年2回の火災避難訓練時は入居者も参加している。居室入り口上部には入居者の身体状況を表す車椅子等のマークを貼っている。コロナ禍もあり近隣への声掛け等が難しい状況であったため、今後の検討事項としている。	事業所は住宅地で民家に隣接していることから火災発生を防ぐことが第一ですが、検討事項とされている地域への声掛けの実現に期待します。また近年の自然災害は予想を上回る例もありますので、災害だけでなく、停電時の対応等、様々な場面を想定しての訓練や話し合う機会作りを期待します。

グループホーム キトさん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中で一人一人の人格を尊重した声掛けや対応を心掛けをしている。年一回の法令遵守の勉強会に参加している。	現状生活の中でのケアに対し気になる事項は見られない。法人研修で毎年学ぶ機会を持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の暮らしの中で、利用者の要望や選択を伺うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望があればできる限り本人のペースに合わせて対応を行っているが、まだ職員側の都合に合わせている時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の服を本人に聞きながら選んでいる。本人の希望でなじみの美容室を利用。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前ほどできなくなってきたが、皮むき等の野菜の下ごしらえを行っている。	職員手作りの食事を提供しており、手作りのおやつも多い。入居者家族栽培の野菜を頂く機会もあり、旬の野菜や魚等をふんだんに使った馴染みある家庭料理で、時にはセレクトメニューもある。行事時には入居者手作りの梅酒を楽しむ姿も見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分チェックをしており、足りていなければ補食、補水を行っている。また食事形態も本人の状況に合わせて変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行っている。本人に合わせてスポンジブラシやガーゼなども使用している。		

グループホーム キトさん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排便状況の確認を行っている。一人一人に合わせ声掛けなどを行っている。	入居者の様子や仕草、チェック表の活用等により、それぞれに合わせた声掛けや支援を行っている。オムツやパット使用の検討・大きさ変更時には試行しながら話し合いを重ね、結果は家族へ了承を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天ゼリーを提供している、また水分を取るよう心がけている。体操等も活用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっている。職員とのマンツーマンで入浴している。	週3回の入浴を基本としている。身体状況も異なることからそれぞれに合わせた介助を行っており、自身の力を継続できるよう見守りを大切にしながら支援を行っている。介護度が高くなった際には、シャワー浴の利用となることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせて午睡を取って貰っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録に毎回服用する薬の説明書をファイリングし、いつでも見れる状態にしている。誤薬が無いようにチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者が生きがいを持って生活できるよう、家事やレクリエーション、行事への参加を促している。また、季節に応じたの見学やドライブ、散歩、買い物などその人に合わせた気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人希望の美容室、墓参りなどに出かけている。また外泊を家族に相談して行えた。	入居者・家族の希望が聞かれた際には個別に支援を行っている。家族協力もあり、一時帰宅やドライブで自宅を訪れることもある。職員体制で可能である際には、「出かけたい」の要望にも気軽に応じ、近隣や市周辺までドライブ、買い物等へ出向いている。	

グループホーム キトさん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームではお金を預からない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望があれば電話での交流を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁等には季節感を感じる飾りつけを行っている。狭い空間のためあまり物を置かないようにし、整理整頓に気を使っている。	自宅リビングのような共有空間であり、穏やかで和やかな雰囲気を持つ。壁等には、入居者が季節の花見等に出かけた際の写真が貼られている。安全に配慮し整理整頓・清潔に努めている。サンルームもあり、コロナ禍の面会に利用した。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方がそれぞれ過ごしやすいように席の配置等に気を使っている。またゆっくり過ごせるようにサンルームを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるように居室には本人が以前より使われていた馴染みの物や写真などを飾っている。	入居以前からの使い慣れた生活用品の持ち込みを依頼しており、テレビや馴染みの物、洋服や帽子等、入居者それぞれの様子がうかがえる設えである。安全確保のため、畳敷に滑り止めも施している。夜間ポータブルトイレを利用される居室では、日中脇に寄せカバーを掛ける等、プライバシー面への配慮もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手摺り等の設置やあまり物を置かないようにして動線の確保を行っている。またできるできないを見極め手を出しすぎないように心がけている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム キトさん家

作成日： 令和6年3月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	日常的に地域の方との交流が出来ていない状況である。	地域の方にキトさん家を知って頂く。	散歩、買い物等外出の機会を増やし地域の方との顔の繋がりを作る機会を増やす。定期的な機関誌の発行でキトさん家の様子やイベントを紹介していく。	1 2 ヶ月
2	4	現在はコロナの関係で書面開催となっており、以前に比べ意見等が集まりにくくなっている。	書面開催となっても意見が集まりやすい環境作り。	相手側の質問だけではなく、こちら側から意見を求めたり、意見書等も一緒に配布し、意見が集まりやすくなるような取組みを行って行く。	1 2 ヶ月
3	35	近年自然災害が増えていく中で、コロナの関係もあり地域との連携が取れていない。	地域の方にどのような利用者の方がいるのかを知って頂く。	地域の方に避難訓練の時の消火訓練への参加を募集し、消防、地域と顔の繋がりを作り、話し合いの機会を作っていく。	1 2 ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。